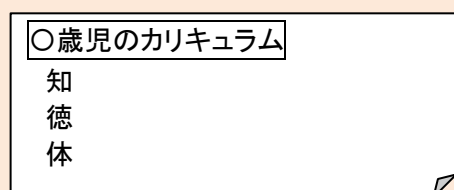


2 2歳児から5歳児のカリキュラムとラーニングデザイン

【2歳児から5歳児】



各歳児のカリキュラムを示しています。「子どもの育ち」と「教育的意図をもった働きかけ」で示しています。

各歳児の「知・徳・体」における「各期のねらい」と「教育的意図をもった働きかけ」を詳しく示しています。

集団での活動が見られてくる2歳児、そして、3歳児・4歳児・5歳児のカリキュラムでは、それぞれの年齢で育みたい子どもの育ちを「知・徳・体」の視点から捉えました。また、次のように観点を設定し、指導者・保育者の教育的意図をもった働きかけを明確に記載しています。

<知>	言語	思考	創造
<徳>	人と関わる力	規範意識	生命の尊重
<体>	運動	基本的な生活習慣	健康・安全 食育

平成25年に策定された「幼児教育の改革のための基本的な考え方」において課題としている「規範意識」や「数を含む概念、空間認識」「言語力」の育成を意図して指導するための観点を設定しています。

各歳児のカリキュラムにおける期のねらいと指導者・保育者の教育的意図をもった働きかけを、より具体的に示したものがラーニングデザインです。

2歳児のカリキュラムは、ラーニングデザインを新たに作成し、養護と教育を一体的に行なう教育的意図をもった働きかけを記載しました。

【2歳児～5歳児のカリキュラム】

各歳児の全体的な発達の姿を示しています。

歳児	
歳児のカリキュラム	
<発達の様子>	
<家庭との連携>	
期のねらい	I期（4・5月）
知	
徳	
体	
教育の意図をもった働きかけ	言語
	思考
	創造
	人と関わる力
	規範意識
	生命の尊重
	運動
	基本的な生活習慣
	健康・安全
	食育

各歳児で大切にしたい、家庭との連携を示しています。

各期でねらいを示していますが、子どもの発達はまだらに進むため、明確な区切りをつけず、幅をもたせて斜線で示しています。

各歳児の子どもの育ちを、「知・徳・体」それぞれの視点で示しています。

指導者・保育者の教育的意図をもった働きかけを、「知・徳・体」それぞれの視点で示しています。

【＜知・徳・体＞ラーニングデザイン】

各歳児で、「知・徳・体」それぞれの視点での発達の姿を示しています。

＜知・徳・体＞ラーニングデザイン

<発達の様子>	
<家庭との連携>	
期のねらい	I期（4・5月）
言語	
思考	
創造	
事例 18	

各歳児で、「知・徳・体」それぞれの視点で、家庭と連携したいことを示しています。

指導者・保育者の教育的意図をもった働きかけを、詳しく、具体的に示しています。

教育的意図をもった働きかけを、より具体的に示している事例番号を掲載しています。

幼児期の教育においては、子どもが生活の全体を通じて様々な体験を重ねる中で「生きる力の基礎」を培うものであり、「知・徳・体」に基づき独立して指導するのではなく、それらのねらいが総合的に達成されるように、計画的、継続的に指導する必要があります。その中で、指導者・保育者が子どもやその保護者と向き合い、子どもの心身を育んでいくために、まず大切にしなければならないことを＜指導上大切にしたいこと＞としてまとめています。

この＜指導上大切にしたいこと＞を指導の根底にもちながら、子どもの姿を多面的に捉え、各時期の発達特性や一人ひとりの実態を踏まえて、次項から示されているカリキュラムをもとに、それぞれの幼稚園・保育所・認定こども園等の実態に即したカリキュラムを作成することが大切です。

＜指導上大切にしたいこと＞

2歳児では、生活に必要な基本的な習慣については、一人ひとりの子どもの発育、発達状態、健康状態をしっかりと把握し、個々に応じた関わりが必要です。落ち着いた雰囲気と、自分でしようとする気持ちが満足できるような環境を整えることが大切であると考えます。また、思い通りにいかないと泣いたり、かんしゃくを起こしたりします。自我の育ちとして受け止め、時間をかけて自分の感情を鎮め気持ちを立て直せるようにしていくことも必要です。

3歳児では、指導者との温かい信頼関係を育んでいくことを指導の根底に置き、あるがままの姿を受け入れながら一人ひとりの子どもの理解に努めることを大切にしたいと考えます。生活のあらゆる場面で機会を捉えて、一人ひとりのよさ、頑張りを言葉で認め、信頼関係を育むようにしながら、自己発揮できる場を設け、集団の中で、その子どもなりの力を表現できる環境を整えることが大切であると考えます。また、自分の思いを様々な形で少しずつでも出していけるようにしながら、相手の気持ちにも気付けるように代弁するなどして、指導者が友達関係の仲立ちをすることも必要となってきます。

4歳児では、友達の存在が大きくなっていくことから、一人ひとりの子どもの理解に努めるとともに、友達との関わりや関係性を育むことを大切にしたいと考えます。意欲をもって行動しようとする姿を見逃さず、その都度認め、共感したり、自己主張するときと自分の気持ちを抑えるときの判断ができるよう支えたりしながら、その様子を周囲の友達に伝え、励みや刺激となるようにします。

また、異年齢児との交流や役割活動等を通して、遊ぶ楽しさやルールを知らせるとともに、子ども同士の関係をつなぎ、優しさ、思いやり、関わりのおおきさなどに気付けるような働きかけをすることも大切にしたいと考えます。

5歳児では、3歳児から4歳児までの育ちを土台としながら、幼児の遊びの中の学びの芽生えを理解し、小学校教育への見通しをもってその芽を育むことを大切にしたいと考えます。仲間としての連帯感が感じられるように、子ども同士の関係をつなぐことや、自分たちで考えたり決めたり物事を進めたりする経験や友達と考えを伝え合う経験等を大切に、共通の目的や課題に向かって取り組む姿勢や生活又は遊びの中で問題を解決する力、他者との関係の中で自己調整する力等を育むようにします。また、一人ひとりがもっている力や見方・考え方は、様々なであることを理解し、子どもへの具体的な知らせ方を工夫したり、困難なことに挑戦するときには、子どもの気持ちの変化を受け止め、共感し、励ましたりすることを大切にしたいと考えます。

(1) 2歳児

2歳児のカリキュラム

<発達の姿>

- 語彙が著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表すようになる。盛んに模倣し、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。
- 探索活動が盛んになり、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。
- 歩く、走る、跳ぶ等の基本的な運動機能や指先の機能が発達し、それに伴い、食事、着脱等の身の回りの始末を自分でしようとする。また、排泄の自立のための身体的機能も整ってくる。

		I 期 (4・5月)	II 期 (6・7・8月)
期のねらい		○新しい環境や生活に慣れ、安心して過ごす ○保育者と一緒に身の回りのことをしようとする	○大人との関わりの中で、身近なことに関心をもつ ○保育者や友達と一緒に好きな遊びを楽しむ
子どもの育ち	知	○したこと、見たこと、感じたことを身振りや言葉で伝えようとする ○知っている歌や手遊びを保育者と一緒にしたり、音楽に合わせて体を動かしたりして遊ぶ ○身近な草花や事物に触れ興味をもつ	○絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりし、繰り返しのある言葉の模倣を楽しむ ○遊具を実物に見立てたり、つもりになったりして遊ぶ ○いろいろな素材に触れ感触を楽しむ
	徳	○保育者や友達との関わりの中で自分の気持ちを安心して表す ○保育者のそばで安心して過ごし、自分の好きな遊びを保育者と一緒に楽しむ ○自分のロッカーや靴箱等、自分の物の置き場所が分かり、身の回りの使ったものを保育者と一緒に片付けようとする ○身近な動植物に興味や関心をもつ	○自分の気持ちが受け入れられると気持ちがよいことを感じる ○友達に興味をもち、同じ場で過ごすことを喜ぶ ○「自分で」と何でも自分でしようとする ○自分の物と他人の物とを区別して扱う ○「まててね」の意味が分かり、順番を待つ ○保育者に言葉をかけられて危ないことや、してはいけないことを知っていく
	体	○体を動かして好きな遊びを繰り返し楽しむ ○スプーンやフォークを使って一人で食べようとする ○保育者に補助されながら排泄・着脱・午睡等しようとする ○手洗いの仕方を知り、保育者と一緒にする ○楽しい雰囲気の中でいろいろな食べ物を食べてみようとする	○砂や泥の感触を楽しんだり、水遊びを楽しんだりする ○できないところは援助されながら、身の回りの始末を自分でしようとする
教育的意図をもった働きかけ		言語	・生活や遊びの中で必要な言葉や挨拶、物の名前等を繰り返し知らせていく
		思考	・身近な自然や環境と関わる場を多くもち、驚いたり発見したりしながら好奇心を育てていけるようにする
		創造	・様々な素材に触れることを楽しむ経験を多く取り入れる
			・歌やリズム等音楽に触れる機会をもち、保育者自らが楽しく踊ったり歌ったりすることで子どものしてみたいという気持ちを引き出す
		人と関わる力	・安心して自分の思いを出せるように子どもの気持ちに寄り添い受け止めていく
			・友達のしていることに気付かせ、友達への興味や関心をもてるようにする
		規範意識	・生活に必要なものや持ち物の置き場所を分かりやすく伝え、保育者と一緒に片付けようとする気持ちをもたせていく
			・集団生活の中でしてはいけないこと、危ないことや順番があることを知らせ、少しずつ理解できるように分かりやすく伝える
		生命の尊重	・身近な動植物に触れる機会を多くもつ
			・自分の誕生日を保育者や友達、いろいろな人から祝ってもらうことで、嬉しいと感じ、愛されているという自尊感情につなげる
体	運動	・体操をしたり、動物や身近なもの（車・飛行機等）になつて体を動かしたりして楽しむ姿を見せ、一緒に遊ぼうという気持ちを引き出す	・砂や泥、水等の感触を楽しめるような遊びを取り入れ開放感を味わわせる
	基本的な生活習慣	・「自分でしたい」という気持ちを大切に、見守ったり必要に応じてさりげなく援助したりすることで、一人でできた喜びや満足感を味わえるようにする	
	健康・安全	・一人ひとりの子どもの健康状態をしっかり把握し、個々に応じた関わりをする	
		・安全に過ごせるように、水分補給や休息をこまめに取り入れる	
食育		・避難訓練では、怖がらずに参加できるように気持ちを受け止めながら誘導する	
		・保育者や友達と一緒に楽しい雰囲気の中で食事ができるようにする	・栽培や食に関する取組を通して、食べ物への興味や関心をもてるようにする

＜家庭との連携＞

- ・一人ひとりの発育に個人差があり、また自我を主張する時期でもあるので、この年齢の育ちの道筋を伝えていくことで、戸惑いや不安を感じる保護者の気持ちに寄り添い、子どもの育ちと一緒に見守っていく。
- ・子どもが自分でできる喜びを感じられるような援助の方法を伝える。
(例えば、着脱しやすい服や、脱ぎ履きしやすい靴を準備してもらうなど)

Ⅲ期（９・１０・１１・１２月）	Ⅳ期（１・２・３月）
○保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ ○保育者の仲立ちで友達との関わりをもつ	○保育者に見守られながら身の回りのことを自分で行うようにする ○進級を楽しみにする
○簡単なストーリーのある絵本や紙芝居を楽しんで見る ○保育者や友達の名前を覚え、生活や遊びに必要な言葉を知り使おうとする	○思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、おしゃべりを楽しんだりする ○生活や遊びの中で、簡単な物の形、色、数、大小に興味をもつ ○見立て、つもり遊びや簡単なごっこ遊びを楽しむ
○いろいろな用具を使い、積んだり並べたりつないだりして繰り返して遊ぶ ○身近な楽器に興味をもち、音を鳴らすことを楽しむ	
○保育者に認められたことを喜び、意欲的に過ごす ○保育者が仲立ちとなり、少人数の友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる ○友達のしている遊びをまねて同じことをしようとする ○生活や遊びの中できまりがあることを知る	○友達に自分から喜んで関わろうとする ○同じようなイメージをもち、見立て、つもり遊びを保育者や友達と楽しむ ○自分の物と人の物、してよいことと悪いことが少しずつ分かるようになる ○保育者に援助されながら、生活や遊びの中で必要なきまりが分かる
○戸外で十分体を動かすことを楽しむ ○保育者に見守られながら身の回りの始末をしようとする	○フォークやスプーンを使い、こぼさないように食べようとする
○尿意・便意を知らせ、自分からトイレに行こうとする ○保育者に見守られながら、衣服や靴の着脱、自分の物の片付けなど支度や始末をしようとする	
・自分の思いや経験したことを自分なりの表現（しぐさ、言葉等）で伝えようとする気持ちを受け止める ・ストーリーのある絵本や紙芝居を繰り返し読むことで、話の面白さを知らせる	
・生活や遊びの中で形・色・数等、物の違いに気付けるように環境を整える	
・子どもの自由な表現や発想を認め、共感して次への意欲へとつなげていく ・歌ったり踊ったり、楽器を鳴らして表現することを楽しめる機会を多くもつ	
・生活や遊びの中で指導者が相手の気持ちを伝え、関わり方を知らせて一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする ・具体的に言葉を知らせたり伝えたいことを仲介したりして、伝わった喜びが感じられるようにする	
・集団生活の中でしてはいけないこと、危ないことがあることを繰り返し知らせていく	・ルールは分かっているが受け入れられない気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しかったという思いをもてることを大事にする
・身近な生き物に親しみや優しい気持ちをもって関わっている姿を認めていく	
・保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことの楽しさが味わえるような音楽や遊びを取り入れる ・保育者や友達と一緒に楽しめるような集団遊びを取り入れる ・一人ひとりの発達を理解し、それぞれの子どもが楽しめる運動遊びを工夫する	
・生活の流れの中で、身の回りの始末を自分でしている姿やしたことを言葉で伝え、喜びや満足感を味わえるようにする	・身の回りの始末が自分で行えるようになった喜びに共感し、進級に向けての期待につなげる
・感染症など病気予防のため、室内の環境を整えたり手洗い、うがい等を促したりする ・安全には十分気をつけながらいろいろな経験ができるようにする	
・避難訓練では保育者の話を聞き、一緒に行動できるようにする ・苦手なものを食べてみようという気持ちをもてるように言葉をかけたり励ましたりする	

<発達の姿>

- 大人の話すことがおおまかに分かるようになる。
- 感じたことや思ったことを自分なりの言葉や方法で表現するようになる。
- 身近な環境に親しみ触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつようになる。

		I 期（4・5月）	II 期（6・7・8月）
期のねらい		○身近な人や物を知る	○身近な人に親しみ、身の回りの出来事を知る
教育的意図をもった働きかけ	言語 (聞く・話す・コミュニケーション・文字等)	・子どもの興味に応じた絵本や季節感、繰り返しのある絵本等を用意し一対一や少人数で楽しむ機会を多くもつ ・身振りや言葉で伝えようとする気持ちに気づき、言葉に置き換える ・保育者が生活や遊びの中で必要な言葉や挨拶、物の名前等を正しく丁寧に伝え、繰り返し使っていく	・子どもが話したい気持ちを受け止め、相手に伝わるよう保育者が代弁することで喜びが感じられるようにする ・生活や遊びの中で友達の名前を呼び合って遊ぶ機会をもつ
	思考 (数量・図形・空間認識・自然科学等)	・身近な環境に興味をもてるように、見たり触れたりする機会をもつ ・子どもの興味や発見に共感しながら好奇心を育てていく ・園所内にはいろいろな場所や部屋があることを知らせる	
	創造 (造形・音楽・身体表現等)	・いろいろな素材を使って、感触やつくったりかいたりすることが楽しめるような環境を整える（砂・土・水・粘土・水性ペン・絵の具など）事例 14 ・歌やリズム等、音楽に触れる機会をもち、保育者自らが楽しく歌ったり踊ったりすることで、子どもがしてみたいという気持ちを引き出す	・保育者や友達と一緒に歌ったり、踊ったり、手遊びをしたりすることが楽しいと感じる環境を工夫する

<家庭との連携>

- ・子どもの気持ちに寄り添い、しっかりと受け止めることの大切さを知らせる。
- ・個人の持ち物に分かりやすい印を付けてもらう。
- ・子どもに丁寧に分かりやすい言葉で、はっきりと話すように伝える。
- ・親子で絵本に親しむ大切さを伝える。

Ⅲ期（9・10・11・12月）	Ⅳ期（1・2・3月）
○身近な環境に興味をもつ	○身近な環境に興味をもち関わろうとする
・子どもの興味や季節感に応じた絵本や繰り返しのある絵本等を用意し、友達と一緒に楽しむ機会を多くもつ ・絵や写真等の視覚的な方法を使って、子どもたちの聞きたい気持ちを育む ・自分の思いや経験したことを自分なりの表現で伝えようとする気持ちを受け止め、応答しながら話したい気持ちを育む ・保育者が生活や遊びに必要な「かして」「いれて」等の言葉を知らせる	・簡単なストーリーのある絵本や紙芝居を繰り返し読むことで、話の面白さを知らせる ・保育者と一緒にごっこ遊びをすることで言葉のやり取りの面白さが感じられるようにする 事例 17 ・保育者の話に興味をもてるように、話の内容や伝え方を工夫する
・生活や遊びの中で形・色・数等に気付けるような環境を整える ・自然物を使って遊ぶ機会をもち、自然の移り変わりに気付くように言葉をかける	・生活や遊びを通して、物の上下・前後に気付かせる ・形の組み合わせが楽しくなるようなパズルや型はめ等の遊びを取り入れ、じっくり遊べる環境を整える ・雪・氷等の冬の自然に気付かせる機会をもつ
・子どもの表現や発想を認め、表現したいという次への意欲へとつなげていく ・子どものつくりたい、かきたい気持ちに応えられるように、環境を整える ・パズルや型はめ等を自分で考えながら、じっくりと遊べるように、道具や環境を整える ・楽器を鳴らしてリズム遊びを楽しめる機会を多くもつ ・音楽に親しみながら身体を動かす機会を多くもち、身体全体で表現する喜びを味わえるようにする	・保育者や友達と一緒に歌ったり踊ったり手遊びをしたりすることを楽しみながら、音やリズム等に親しめるようにする

< 発達の様相 >

- 新しい環境の中で保育者との信頼関係に支えられ、自分でしようとする気持ちが旺盛になる時期である。
しかし、思い通りにいかない場合は不安定な感情を表出するときもある。
- 友達への興味や関心も高まり関わりをもとうとするが、その一方で自己と他者の認識の違いが十分でないことからトラブルになることもある。
- 集団生活の仕方に慣れてきて、してはいけないことが分かり始める。
- 身近な生き物に興味や関心を持ち、親しみをもって関わっていくことが大切だと気づき始める。

		I 期（4・5月）	II 期（6・7・8月）
期のねらい		○新しい環境に慣れ、安心して過ごす	○保育者との関わりの中で友達への興味や関心をもつ ○生活や遊びに約束があることを知る
教育的意図をもった働きかけ	人と関わる力 (自立心・思いやりの心 協同性・道徳心等)	・保育者に安心して自分の思いを十分に出せるように、子どもの気持ちに寄り添い受け止めていく ・何でも「自分で」という気持ちを大切にし、その姿を認めることにより、自分でしようとする気持ちを育む ・新しい環境のもとで保育者と触れ合う機会を多くもつ 事例 12	・友達に関心がもてるように、いつも一緒に遊んでいる友達の名前を呼んだり、様子に気付かせたりする ・年上の友達と関わる機会を多くもち、優しく接してもらえる心地よさが感じられるようにする
	規範意識 (社会生活の ルールを守る心等)	・自分のロッカーや靴箱等が分かるように（マーク等）知らせる ・形や種類で遊具を分類したり、視覚的な方法で置き場所を分かりやすくしたりするなど、保育者と一緒に片付ける環境を用意する ・生活や遊びの中でしてはいけないこと、危ないことがあることを分かりやすく（視覚的な方法等）繰り返し知らせていく	・自分の使った物や持ち物の置き場所を分かりやすく伝え、一緒にもとに戻そうとする気持ちをもたせていく
	生命の尊重 (命の大切さを 感じる心等)	・身近な動植物に興味もてるように、子どもと一緒に触れたり、見たり、飼育栽培をしたりする機会をもつ ・日々の生活の中で、自分がかげがえのない存在として大切にされていると感じていけるように関わっていく（褒める・励ます・スキンシップ等） ・自分の誕生日を指導者や友達、いろいろな人から祝ってもらうことで嬉しいと感じ、愛されているという自尊感情がもてるようにする	・野菜を育てる中で生長に気付くような言葉をかける

<家庭との連携>

- ・何でも自分でしようとし、盛んに自己主張するため、保護者が子育てに戸惑いや不安を感じる時期である。2歳児の育ちの道筋を伝えたり、保護者の気持ちに寄り添ったりし、一緒に子どもの育ちを見守っていく。
- ・社会生活のルールやきまりを守ることの大切さを子どもに知らせるには、大人が手本になることが大切であることを保護者に伝える。

Ⅲ期（9・10・11・12月）	Ⅳ期（1・2・3月）
○保育者の仲立ちで友達との関わりをもつ	○友達と一緒に遊ぶことを楽しむ ○進級への期待をもつ
・保育者が相手の気持ちを伝え、関わり方を知らせながら一緒に遊ぶ楽しさが感じられるようにする ・友達がしている姿を見て一緒にしてみたいという気持ちがもてるように、保育者が仲立ちとなり遊びを広げ、子ども同士の関わりへとつなげていく 事例16 ・異年齢の友達と関わる機会を多くもち、楽しいと感じられるようにする	・子どもの思いや要求を具体的な言葉で表しながら気持ちに寄り添い、次にどうしたらいいかを知らせる ・異年齢の友達に親しむ気持ちがもてるように触れ合う機会をつくる
・使った物をもとに戻す姿を認め、片付けることが集団生活でのルールにつながるようにする ・集団生活の中でしてはいけないこと、危ないことを繰り返し伝え、守れたときは認めていく ・友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられるようになるために、保育者と一緒に順番を守ったり交代したりする	
・身近な動植物に親しみを感じたり優しい気持ちをもったりするように言葉をかける	・身近な動植物に親しみや優しい気持ちをもって関わっている姿を認めていく ・草花の生長や変化に気付くような機会をもち、冬から春への季節の移り変わりを知らせる

< 発達の様子 >

- 走る・跳ぶ・登る・押す・引っ張る等の全身運動が発達するとともに、つまむ・めくるなどの指先の機能も発達する。
- 自分の体を十分に動かし、様々な動きを楽しむ。
- 身の回りの始末の仕方を知り、保育者と一緒に言いながら徐々に自分でもしようとする。
- 健康で安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする。
- 友達と一緒に食べることを楽しみ、自分で食べようとする。

		I 期（4・5月）	II 期（6・7・8月）
期のねらい		○戸外で好きな遊びを楽しむ ○保育者と一緒に身の回りのことをしようとする	○戸外で保育者や友達と一緒に好きな遊びを楽しむ ○水遊びを楽しむ
教育的意図をもった働きかけ	運動	・戸外で保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ機会を多くもつ ・体操や動物、身近なもの（車、飛行機等）になって体を動かして楽しむ姿を見せ、保育者と一緒にしてみたいという気持ちを引き出す 事例 13	・砂や泥、水等の感触を楽しめるような遊びを取り入れ開放感を味わわせる ・一人ひとりの子どもが遊びを楽しめるように、個々に応じた活動を取り入れる
	基本的な生活習慣	・「自分でしたい」という気持ちを大切に、見守ったりさりげなく援助したりすることで、一人でできた喜びが味わえるようにする ・スプーンやフォークを持ち、食器に手を添えて食事するように言葉をかけ、自分で食べようとする気持ちを育む ・保育者と一緒に衣服の着脱をすることで、自分でしようとする気持ちを育む	・一人ひとりの排泄の間隔を見ながらトイレに誘い、パンツで過ごせるようにしていく
	健康・安全	・睡眠中は個々の様子を観察・記録し、事故のないようにする ・手洗いやうがい（食後）が習慣になっていくように一緒に行い、自分でしようとする姿を認め、きれいになったことを伝える	・安全に過ごせるように水分補給や休息をこまめに取り入れる ・安全に水遊びができるように環境を整えたり遊び方を知らせたりする
	食育	・保育者や友達と一緒に楽しい雰囲気の中で食事ができるようにする ・食事を通して、いろいろな食べ物に慣れるようにする	・栽培や食に関する取組を通して、食べ物への興味や関心がもてるようにする 事例 15